

目標に向かって自分の個性を生かし主体的に行動できる児童の育成

—自分たちの強みや未来像を共有し、学級の課題を自分事として考える活動を通して—

特別研修員 特別活動 八高 晓仁(小学校教諭)

児童の実態

- ・自分のことが中心になってしまい、学級全体のことを考えることに課題が見られる。

題材名:「北小オリンピックをしよう」特別活動(3) 第5学年

手立て1 肯定的な働きかけによるAIアプローチ (Appreciative Inquiry [4Dサイクル]) の手法を用いて、自分たちの強みやお互いのよさを積極的に引き出すことで、学級への所属意識を高め、学級に対する自分の貢献について考えることができるようとする。

Discovery

[分析 = 自分たちの強みや価値を発見する]

- △アンケート結果や過去の成功体験(行事等の振り返り)から、自分たちの強み(長所)や価値を確認する。



< 2巡目以降 >

- △アンケートを取り、取組の達成度を確認(検証、分析)する。
- △新たに得られた価値や小さな変化を確認(共有)し、自分たちの「ありたい姿」に向けて、新たなサイクルを回していく。

(新たなサイクルへ)

学級の強み
・
お互いのよさ

Destiny [計画に基づいて、実践する]

- △取組がスタートしたら、PDCAサイクルを回し、計画や進行状況を確認しながら進めていく。



- △北小オリンピックに向けて①(休み時間に自発的に準備や話合い)
- △北小オリンピックに向けて②(12月にプレ大会を実施)



目指す児童像

自分のことだけでなく、学級全体のことを考えながら、目標に向かって自分の個性を生かし主体的に行動できる児童

成果

- 学級の中での自分の役割や努力目標を、一人一人が自分で考えて決めることができた。
- 自ら立てた目標を達成しようと行動することで、学級の活動に主体的に参加するとともに、学級の中で自分の役割を果たすとする姿がたくさん見られるようになった。
- 活動を振り返る中で、児童自身が更に自己のよさや成長、変容を感じ、次の活動への意欲をもつことができた。

課題

- アンケートを基に強みや価値観を共有する場合、児童の捉え方は様々であるため、事前に評価基準を全体で共有しておく必要がある。
- 児童が自らの姿を客観的に捉え、変容をより実感できるようにするために、アンケート結果に対する児童と教師の捉えの差を対話をしながら埋めていく必要がある。